

## 「請求用語」之中日對照研究 —以較慎重的請求信函為例—

本間美穗

銘傳大學應用日語學系講師

### 摘要

本研究的主要目的，在於了解中文和日文較慎重的請求信函裡，所使用之請求用語的種類、請求用語的使用情況，以及提升請求用語慎重禮貌程度的手段。

首先，請求用語的種類和使用情況方面，分析結果如下：

(1)中文和日文較慎重的請求信函裡所使用之請求用語的類型，主要可分為「要求型」「疑問型」「希望型」「信函型」「條件型」等 5 種類型。

(2)中文和日文較慎重的請求信函裡，進行第一次請求時，主要使用規約性間接式請求用語，其中使用最多的是疑問型。而再次請求時，主要使用直接式請求用語的要求型。

其次，有關提升請求用語慎重禮貌程度的手段方面，其分析結果如下：

(1)共同點：①使用附加疑問句、②使用包含否定型的疑問句、③疑問句中添加不定推量表現、④使用慎重禮貌程度較高，或間接性程度較高的措辭。

(2)相異處：日文較常使用陳述副詞。中文則會使用語氣助詞，或是表示被請求者會給予請求者恩惠的語句，亦或是表示請求者和被請求者之間有地位差距的人稱代名詞。

關鍵詞：請求信函、請求用語、類型、使用情況、提升慎重禮貌程度的手段、中日對照

# 「依頼表現」に関する日中対照研究 —丁寧な依頼の手紙文の場合—

本間美穂

銘傳大学応用日本語学科講師

## 要旨

本稿の目的は、日中両言語の丁寧な依頼の手紙文で 사용되는依頼表現のタイプ、使用状況、丁寧化の手段を明らかにすることである。

まず、依頼表現のタイプと使用状況の分析結果は、次の通りである。

- (1)日中両言語の丁寧な依頼の手紙文では、主に「要求型」「疑問型」「希望型」「手紙型」「条件型」の5つのタイプの依頼表現が使用される。
- (2)日中いずれの言語も、《依頼》には主に慣習的間接表現が使用され、その中で疑問型が最も多用される。《懇願》には主に直接表現の要求型が使用される。

次に、依頼表現の丁寧度を高める手段についての分析結果は、次の通りである。

- (1)共通点：①付加疑問文を使用する、②否定形を含む疑問文を使用する、③疑問文に不定推量表現を付加する、④敬度や間接度の高い言い回しに変更する（但し、日本語の方が中国語より語彙的・形態的手段が多い）。
- (2)相違点：日本語は、陳述の副詞を多用する。中国語は、語気助詞、恩恵を明示する語句、地位差を明示する人称代名詞を使用する。

キーワード：依頼の手紙文、依頼表現、タイプ、使用状況、丁寧化の手段、日中対照

# **A Comparison Study of “Request Expression” between Chinese and Japanese**

## **—Use the Formal Request Letter as Example—**

Homma Miho

Lecturer, Dept. of Applied Japanese, Ming Chuang University

### **Abstract**

Main purpose of this research is to analyze and understand types, usage, and strategy applied for raising politeness of “request expression” in those Chinese and Japanese formal request letters.

First of all, result of analyzing types and usage: Chinese and Japanese have something in common. For example, (1) There are 5 principal types of “request expression” including Direct Request, Questioning, Wishing, Letter, and Conditional. (2) Conventionally indirect request type is mainly used by those who request for the first time. Questioning type was used mostly. Direct Request type is used mostly when request again.

Secondly, regarding utilizing strategy applied for raising politeness, following is the analysis result: (1) Common: ① Use tag question, ② Use negative question, ③ Use uncertain question, ④ Use term with higher level politeness. (2) Different: Declarative Adverb is used often in Japanese. But in Chinese, Modal Particle, wording indicting the favor will be granted, or personal pronouns used between different social status is used.

**Keywords:** the letter of request, request expression, type, actual usage, strategy applied for raising politeness, the Comparison Study between Chinese and Japanese

# 「依頼表現」に関する日中対照研究 —丁寧な依頼の手紙文の場合—

本間美穂

銘傳大学応用日本語学科講師

## 1. はじめに

人に何かを頼む「依頼」は、日常生活で頻繁に行われる言語行動である。しかし、自分の利益になることを相手の負担によって実現しようとするものであることから、様々な言語行動の中でも特に人間関係に摩擦を生じさせやすい。そこで、我々は相手の感情を害さずに快諾を得ようと、これまでに身につけた言語行動規範、多くの場合は母語の語用論的規範に沿って人間関係や依頼内容に適した言語形式を選択し、様々な方略を駆使する。実際、中国語を母語とする日本語学習者の依頼の言語行動を分析した先行研究では、彼らと日本語母語話者の依頼実現のための言語表現や談話展開に違いが観察され、母語の影響（或いはその可能性）が指摘されている。

教師は、日本語学習者が接触場面における依頼で、日本語母語話者と適切で円滑なコミュニケーションが行えるよう、学習者の母語と目標言語の依頼行動の特徴と異同を明らかにし、その知識を指導に応用していかなければならない。本稿ではこのような考えに基づき、まだ知見の蓄積が少ない日中両言語の丁寧な依頼の手紙文で使用される「依頼表現」のタイプと使用状況、丁寧化の手段を明らかにする。

## 2. 先行研究

### 2.1 依頼表現のカテゴリーとタイプ、及び使用傾向

Blum-Kulka ほか（1989）では、8 言語の母語話者と 3 言語の非母語話者のデータを収集し、異なる言語間、及びある言

語の母語話者と非母語話者の依頼と謝罪の発話行為方略を比較する大規模な研究プロジェクトを行うにあたり、後に多くの依頼と謝罪の発話行為研究に応用されることになるデータ収集方法やストラテジー分類方法を確立している。

Blum-Kulka ほか(1989)では、依頼発話の主な構成要素を、①「注意喚起部」(alerters: 相手の注意を引く呼びかけの部分)、②「主要行為部」(head acts: 依頼を実現するための中心的な部分)、③「補助作用部」(supportive moves: 主要行為部の前後に付加され、依頼の効力を軽減・強化する補足的な部分)の3つに分けている。また、主要行為部を直接性を基準に、①直接表現、②慣習的間接表現、③非慣習的間接表現の3つのカテゴリーに分類している。本稿では、これら「依頼を遂行する表現」を「依頼表現」と呼ぶ。

英語の母語話者と非母語話者の依頼・不満・謝罪の発話行為について分析した Trosborg (1995) は、Blum-Kulka ほか(1989)の依頼表現のカテゴリー分類に若干修正を加えている。両者の分類を表1にまとめた。

表1 海外の先行研究における依頼表現のカテゴリー分類

Blum-Kulka ほか (1989:18)	Trosborg (1995:205)	依頼表現のタイプ
直接依頼	直接依頼	省略: Your car (please).
		命令: Lend me your car.
		遂行動詞 (緩衝なし): I ask/require you to lend me your car.
		遂行動詞 (緩衝あり): I would like to ask you to lend me your car.
慣習的 間接依頼	慣習的 間接依頼	義務: You must/have to lend me your car.
		願望・必要: I want/need to borrow your car.
		希望: I would like to borrow your car.
		提案: How about lending me your car?
		許可: May I borrow your car?
		意思: Would you lend me your car?
非慣習的	非慣習的	能力: Could you lend me your car?
		ほのめかし(強め): My car has broken down. Will you be using your car tonight?

間接依頼	間接依頼	ほのめかし（弱め）：I have to be at the airport in half an hour.
------	------	--

一方、日本語の依頼表現のカテゴリー分類は、次の表 2 に示す通り研究者によって種々ある。

表 2 日本の先行研究における依頼表現のカテゴリー分類

研究	カテゴリー
仲・無藤 (1983:12)	<b>【直接的要求文】</b> 「～てください」の形で表される文。 <b>【慣習的な間接的要求文】</b> 「～てくれますか」「～てもらえますか」など、一般に用いられることが多い形式のもので、特定の文脈がなくても要求として受け取られやすい文。 <b>【非慣習的な間接的要求文】</b> 「～もってますか」など、特定の文脈がない場合、要求として受け取られにくい文。
岡本 (1988:7)	<b>【直接的な表現】</b> 命令形（「～て」「～てください」等） <b>【間接的な表現】</b> 肯定疑問形（「～てくれる」等）、否定疑問形（「～てもらえない」等）、希望を叙述する形（「～てほしいんだけど」等）など。
益岡・田窪 (1992:121-122)	<b>【直接依頼形式】</b> ①「動詞のテ形＋「くれる」の命令形」を使うもの（「～てください」等）、②相手が自分の頼みに応じる意志があるか尋ねるもの（「～てもらえないか」等）。 <b>【間接依頼形式】</b> ①相手の動作を自分が望んでいることを知らせるもの（「～てもらいたい」等）、②それが自分にとって有益であることを知らせ、相手がその動作をしてくれるように仕向けるもの（「～てくれると助かる」等）など。
加藤 (1996:47)	<b>【直接表現】</b> 発話者の意図が推論を経ずに理解できる表現（レジでお金を払おうとするが足りず、傍にいる友人に「千円貸して」と言う場合など）。 <b>【間接表現】</b> 発話者の意図が明示されておらず、場面・状況への依存がかなり大きい表現（上述の場面で「千円、持ってる？」と聞き、千円貸してほしいことを暗示的に伝える場合など）。

また、日中両言語の依頼表現のタイプについては、顧ほか（1998:22-23）、山岡・李（2004:134-152）、畑中（2011:50）が、次の表 3 に示す分類を提示している。

表 3 先行研究における日中両言語の依頼表現のタイプ分類

研究	タイプ
顧ほか (1998)	① 要求型：「～ください」「～お願いします」「～てくださいませんか」「請幫我～」「麻煩你～」など

	② 商談型：「～ていただけませんか」「～ていただければありがたいんですが」「能不能～」など ③ 状況型：依頼者の状況を説明したり、被依頼者の状況を聞くなど ④ 希望型：「～たいんですが」「～てほしいんですけど」「我想～」など
山岡・李 (2004)	① 遂行文：「～ようお願いします」「請～」「拜託～」など ② 疑問文：「～てくれませんか」「～ていただけますか」「可以～嗎?」「能不能～」など ③ 願望文：「～てほしいんですけど」「～ていただきたいんですが」「我想（請）～」など ④ 命令文：「～て（ください）」「給我～」「為我～」など ⑤ 条件文：「～てもらえるとありがたいんですが」「如果能請您～，將不勝感激」など
畑中 (2011)	① 要求型：直接的要求表現を用いる型（「～てください」「～お願いします」「麻煩你～」「請～」「～吧」等） ② 疑問型：疑問文を用いて相手に協力や許可を求める型（「～てもらえますか」「～いいですか」「能～嗎?」等）。 ③ 希望型：自己の希望や欲求を表す型（「～ほしいです」「～頂きたいのですが」「我想～」「我要～」等） ④ 宣言型：自己の意思を一方的に宣言する型（「～に行きます」「我去～」「我到～」等） ⑤ 主題型：商品名や行き先など、主題のみの型

そして、日中両言語の依頼表現の使用傾向については、一般的には、中国語の方が直接表現の使用頻度が高く、日本語の方が慣習的間接表現の使用頻度が高いことが分かっている<sup>1</sup>。一方、丁寧さが求められる場合の依頼表現の使用に関しては、①両言語とも疑問型が多用される、②両言語とも希望型が多用される、③日本語では疑問型が多用されるが、中国語では直接表現もかなり使用されるなど様々な報告がされており<sup>2</sup>、まだ十分明らかになっていない。

このため、相手レベル・用件レベルから高い配慮性・丁寧度が求められる依頼場面で使用される日中両言語の依頼表現のタイプを明らかにする必要があると思われる。

<sup>1</sup> 橋元(1992)、顧ほか(1998)、楊(2009)参照。

<sup>2</sup> ①は谷口(2006)と畑中(2011)、②は施(2006)、③は楊(2009)参照。

## 2.2 依頼表現の丁寧化の手段

Blum-Kulka ほか（1989）では、主要行為部内で行う依頼の効力の調節を「内的修正」（internal modifier）と呼び、依頼の効力を軽減する「格下げ」（downgraders）と強化する「格上げ」（upgraders）の 2 種に分け、具体的な手段を提示している。一方、日中両言語の依頼表現を比較した林（1982）、馬場・盧（1992）、浜田（1995）では、両言語の依頼表現の丁寧化手段として、次の表 4 に示すようなものを挙げている。

表 4 先行研究における日中両言語の依頼表現の丁寧化手段

研究	丁寧化の手段
林 (1982)	<p>【日本語】①文末に助辞を加える（「話して」→「話して<u>ね</u>」）、②助動詞を加える（「お話しください」→「お話しください<u>ませ</u>」）、③否定疑問の形にする（「話してくれ」→「話してくれ<u>ないか</u>」）、④接頭辞を加える（「話しなさい」→「<u>お</u>話しなさい」）、⑤授受関係動詞を敬意を含んだ別の動詞に変える（「話してくれ」→「話して<u>いただけませんか</u>」）、⑥副詞的な言葉を加える（「話してくれ」→「<u>どうか</u>話してくれ」）</p> <p>【中国語】①助辞を加える（「説!」→「説<u>吧</u>!」、「別抽菸!」→「別抽菸<u>了</u>!」）、②動詞の前に副詞的な言葉を加える（「説!」→「<u>請</u>説!」「<u>快</u>説!」）</p>
馬場・盧 (1992)	<p>【日本語】①「ちょっと」などで軽減化する、②文体の選択・助動詞の使い分け・文末表現などの形態的手段で敬意を表す、③敬語の使用などの語彙的手段で敬意を表す、④「～てちょうだい」「～てくれるとありがたいんですが」など丁寧度・直接度の異なる依頼表現を人間関係・場面によって使い分ける</p> <p>【中国語】①「一下」「動詞＋（一）＋動詞」などで軽減化する、②「多（多）」などで加重化する、③「王校長」「您」「高見」などの語彙的手段で社会的地位差を表す、④丁寧度・直接度の異なる依頼表現を人間関係・場面によって使い分ける（遂行動詞「請」を使用するかどうか含まれる）</p>
浜田 (1995)	<p>【中国語】①語気助詞「吧」を付加する、②助動詞「能」を付加する、③「好不好?」などの疑問句を付加する、④反復疑問文を使用する、⑤「一点」などで軽減化する、⑥「多」などで加重化する、⑦相手が恩恵を与えることを明示する「給(我)」「幫(我)」などを付加する、⑧遂行動詞「請」「求」などを使用する</p>

しかし、上記表 4 の丁寧化手段の中には、場面・状況によ



っては不適切な表現となるものがある<sup>3</sup>。このため、相手レベル・用件レベルから高い配慮性・丁寧度が求められる依頼の際に使用される日中両言語の依頼表現のタイプのほかに、それらの丁寧化の手段を明らかにする必要があると思われる。

### 3. 用語の定義

本稿では、依頼表現を「依頼遂行の表現」と定義し、諸説を参考に「直接表現」「慣習的間接表現」「非慣習的間接表現」の3つのカテゴリーに分類する。表5にそれらの定義を示す。

表5 本稿における依頼表現のカテゴリー分類

カテゴリー	定義
直接表現	「～お願いします」など遂行動詞を使った表現や「～てください」など字義通りの意味にしか解釈できない明示的な依頼表現。
慣習的間接表現	「～てもらえますか」「～てもらいたいのですが」「～てもらえるとありがたいのですが」など遂行動詞を伴わず、相手の意志を尋ねたり、自分の希望を伝えたりする文法形式を用い、間接的に依頼を遂行する定型的で慣習的な依頼表現。
非慣習的間接表現	推論を経て依頼を遂行できる非定型的な依頼表現。

### 4. 調査の概要

本調査の目的は、日台の大学生による恩師宛の身元保証人依頼の手紙文から、日中両言語の丁寧な依頼の手紙で《依頼》と《懇願》<sup>4</sup>に使用される依頼表現を抽出し、そのタイプと使

<sup>3</sup> 例えば、周（1994:177）では、「ちょっと」は「依頼の場合、内容的にそれほど重いものではない、話し手と聞き手とが気軽に行為を求めることができる間柄に限って、使われうる」としている。また、川成（1996:60）では、「主依頼文の文末に付加される「ね」と「よ」は、依頼表現全体のモダリティからみると、聞き手に対する丁寧度を低下させていることになる」としている。

<sup>4</sup> 本稿では、依頼の手紙文で最初に現れる依頼の意図を伝える発話を《依頼》、その後で再び依頼の意図を伝える発話を《懇願》とする。日本人大学生の産出文例で示すと次の通り。「本日は、折り入ってお願いがありお便りを差し上げました。……台湾人の方に身元保証人になっ

用状況、丁寧化の手段を明らかにすることである。

データ収集は、日本と台湾の大学生各 60 名計 120 名の協力を得て<sup>5</sup>、2009 年 12 月から 2010 年 12 月にかけて行った。彼らに書いてもらったのは、かつてお世話になり、今では疎遠になっている先生に大学院留学の身元保証人を依頼する、相手レベル・用件レベル<sup>6</sup>の両面から高い配慮性・丁寧度が求められる手紙文である。

## 5. 結果と考察

### 5.1 日本語の丁寧な依頼表現

#### 5.1.1 タイプと使用傾向

本調査で日本の大学生が産出した依頼表現は、直接表現の「要求型」と慣習的間接表現の「疑問型」「希望型」「手紙型」「条件型」「自問型」の 6 タイプに大別できる<sup>7</sup>。表 6 にそれらの下位分類・産出例を、表 7 にそれらの使用状況を示す。

表 6 日本の大学生が産出した依頼表現のタイプ

類型	下位分類	産出例
要求	お願い型	(1)その身元保証人をご依頼させて頂きたく <u>お願い申し上げます</u> 。(《依頼》)

て頂く必要がございまして、ぜひ王先生にお願い致したいと存じております (《依頼》)。突然の不躰なお願いで大変失礼ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます (《懇願》)。」

<sup>5</sup> 日本は東北・関西地方の国立・私立大学 3、4 年生計 60 名、台湾は北部の国立・私立大学 3、4 年生計 60 名。台湾の大学生については、第二外国語が母語の使用に影響を与える「逆行転移」を回避するため、日本語学習経験のない非日本語専攻の学生に協力を依頼した。

<sup>6</sup> 相手レベルは、疎遠になった目上の人。用件レベルは、相手がそれを実行することの当然性が低く、負担度の大きい内容。

<sup>7</sup> 本稿では、日本語の丁寧な依頼ストラテジーを調査分析した森山 (1995)、日中両言語の依頼会話を比較分析した顧ほか (1998)、日中両言語の依頼表現を比較分析した山岡・李 (2004) の分類法を参考に、日台の大学生が産出した日中両言語の依頼表現を、「要求型」「疑問型」「希望型」「手紙型」「条件型」「自問型」の 6 タイプに分類した。

型		(2)どうかよろしく <u>お願い</u> いたします。(《懇願》)
	下さい型	(3)その身元保証人を短期留学の際大変お世話になった先生に <u>お願い</u> させて下さい。(《依頼》) (4)ご検討下さい。(《懇願》)
疑問型	授受補助動詞肯定型	(5)身元保証人になって <u>いただけます</u> でしょうか。(《依頼》)
	授受補助動詞否定型	(6)是非私の身元保証人になって <u>頂けない</u> でしょうか。(《依頼》)
	「お願い」肯定型	—該当なし—
	「お願い」否定型	(7)王先生に身元保証人を <u>お願い</u> できませんでしょうか。(《依頼》)
	付加型	(8)先生に身元保証人になって <u>いただきたい</u> のですが、 <u>お願い</u> できますでしょうか。(《依頼》) (9)その身元保証人を、王先生に <u>お願い</u> したいと思っておりますが、 <u>可能</u> でしょうか。(《依頼》)
希望型	受諾期待表明型	(10)是非私の身元保証人になって <u>いただきたい</u> と思っております。(《依頼》)
	依頼意図表明型	(11)ぜひ王明徳先生に <u>お願い</u> したいと思っております。(《依頼》)
手紙型	受諾期待表明型	(12)王先生に保証人になって <u>いただきたい</u> と思い、 <u>お手紙を差し上げました</u> 。(《依頼》)
	依頼意図表明型	(13)王先生に <u>お願い</u> したく、 <u>お手紙を差し上げた次第です</u> 。(《依頼》)
	受諾可能自問型	(14)先生に身元保証人になって <u>いただけないか</u> と思います、 <u>お手紙をお送りいたしました</u> 。(《依頼》)
	依頼可能自問型	(15)王先生に <u>お願い</u> できないかと思い、 <u>手紙を送りました</u> 。(《依頼》)
条件型		(16)ご検討願えればさいわいです。(《依頼》) (17)もしご承諾 <u>頂けましたら</u> 幸いです。(《懇願》)
自問型		(18)もし見つからなかった場合は、王先生に <u>お願い</u> できないかと考えています。(《依頼》)

註：( ) に《依頼》《懇願》のどちらとして出現したかを示す。

表 7 日本語の依頼表現のタイプ別出現数[n=60]

類型	《依頼》	《懇願 1》	《懇願 2》	《懇願 3》
疑問型	25(41.7%)	5(8.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)
手紙型	16(26.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
希望型	15(25.0%)	1(1.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)
要求型	2(3.3%)	37(61.7%)	7(11.7%)	1(1.7%)
条件型	1(1.7%)	5(8.3%)	1(1.7%)	0(0.0%)
自問型	1(1.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
合計	60(100.0%)	48(80.0%)	8(13.3%)	1(1.7%)

註：《懇願》の付加数字は出現順序を示す。

本調査で観察された日本の大学生の依頼表現の使用傾向として、次の2点を挙げることができる。

1. 《依頼》については、慣習的間接表現が使用される傾向が顕著で、疑問型・手紙型・希望型の使用率が高い。このうち最も使用率が高いのが疑問型で、肯定疑問文より否定疑問文の方が多用されている。
2. 《懇願》については、直接表現の要求型が使用される傾向が顕著で、その殆どがお願い型である。

上述の使用傾向について考察を行う。まず、《依頼》として出現した表現形式から見ていく。《依頼》については、①疑問型（41.7%）、②手紙型（26.7%）、③希望型（25.0%）、④要求型（3.3%）、⑤条件型（1.7%）、⑥自問型（1.7%）の順で出現頻度が高く、慣習的間接表現に使用が集中していた。

最も使用率が高かった疑問型は、相手に意向を尋ね、依頼に応じるか否かの決定をその自由な意志に委ねる、相手に配慮した依頼の表現形式である。抽出された形式は、下記の産出例(5)(6)<sup>8</sup>のように授受補助動詞を使用したもの、産出例(7)のように依頼の遂行動詞「お願いする」を使用したもの、産出例(8)(9)のように希望型の依頼表現に相手の意向や都合を尋ねる文が付加されたものの3タイプに分けられる。

- (5)身元保証人になっていただけますでしょうか。
- (6)是非私の身元保証人になって頂けないでしょうか？
- (7)王先生に身元保証人をお願いできませんでしょうか。
- (8)先生に身元保証人になっていただきたいのですが、お願いできますすでしょうか？
- (9)その身元保証人を、王先生にお願いしたいと思っておりますが、可能でしょうか。

---

<sup>8</sup> 番号は表6の産出例の通し番号である。

抽出された疑問型の依頼表現 25 例中 19 例（76.0%）が産出例(6)(7)のような否定疑問文であった。これは、否定の答えを予想した否定疑問文のほうが肯定疑問文で依頼されるより断りやすく、押し付けの度合いが低いので、より丁寧な表現になるためと考えられる。

次に使用率が高かった手紙型は、直接的な依頼行為を回避するため、手紙を送った事情を説明する形式で依頼を行うものである。抽出された形式は、下記の産出例(12)のように相手に依頼を引き受けてもらいたいことを伝えるもの、産出例(13)のように相手に依頼したいことを伝えるもの、産出例(14)のように相手に依頼を引き受けてもらうことが可能かどうか考えていることを伝えるもの、産出例(15)のように相手に依頼することが可能かどうか考えていることを伝えるものの 4 つのタイプに分けられる。

- (12)王先生に保証人になっていただきたいと思い、お手紙を差上げました。
- (13)王先生にお願いしたく、お手紙を差上げた次第です。
- (14)先生に身元保証人になっていただけないかと思い、お手紙をお送りいたしました。
- (15)王先生にお願いできないかと思い、手紙を送りました。

そして、手紙型とほぼ同程度の使用率だった希望型は、自分の希望のみを述べる婉曲的な依頼の表現形式である。抽出された形式は、下記の産出例(10)のように相手に依頼を引き受けてもらいたいことを伝えるもの、産出例(11)のように相手に依頼したいことを伝えるものの 2 タイプに分けられる。

- (10)是非私の身元保証人になっていただきたいと思っております。
- (11)ぜひ王明德先生にお願いしたいと思っております。

希望型は、「～たいです」と言い切りの形で使用すると「ぞんざい」な印象を与えてしまうが、本調査では殆どが「～た

いと思っております。」「～たいのです。」など婉曲化・敬語化したり、事情説明的にしたりして直接的に言い切ることが避けられており<sup>9</sup>、相手への配慮が感じられる。

このほか、本調査では僅かだが条件型・自問型・要求型の依頼表現が《依頼》として産出されていた。条件型は、下記の産出例(16)のように「V いただければ幸いです」「V てもらえると有難いです」など仮定条件を含んだ言い方で自分にとって有益な事態を述べるもので、相手に対する配慮が強く意識された、かなり遠慮がちな依頼表現である<sup>10</sup>。後で述べるが、本調査では条件型が《依頼》より《懇願》として使用される傾向が見られた。自問型は、下記の産出例(18)のように依頼が可能かどうか考えていることを伝えるもので、押し付け感が出ないようかなり配慮した依頼表現だと言える。

(16)ご検討願えればさいわいです。

(18)もし見つからなかった場合は、王先生にお願いできないかと考えています。

直接表現の要求型は、下記の産出例(1)のお願い型と産出例(3)の下さい型の2タイプに分けられ、《依頼》としての使用が各1例ずつ観察された。いずれも使役形を使って丁寧に許可を求める表現で、不適切さは感じられない。

---

<sup>9</sup> 日本語記述文法研究会(2003:75-76)では、「てほしい」や「てもらいたい」は、行為の実現への希望を聞き手に伝えることによって依頼を行うもので、会話の中では直接的に言い切ることが避けられ、「のだ」によって説明的にしたり、さらに「けど」「が」のような接続助詞で言いさしたりして用いることが多いとしている。

<sup>10</sup> 森山(1995:99)では、日本の大学生に最も丁寧な依頼表現を択一させる調査を行ったところ、37%という非常に高い率で条件型が選択されたと報告している。山岡・李(2004:149)でも、条件型の依頼表現には、「依頼というフェイス脅かし行為に対する最大限の配慮が表現されている」と指摘している。

- (1)その身元保証人をご依頼させて頂きたくお願い申し上げます。  
(3)身元保証人を短期留学の際大変お世話になった先生にお願いさせて下さい。

次に、《懇願》として出現した表現形式について見てみる。  
《懇願》については、①要求型（45 例）、②条件型（6 例）、③疑問型（5 例）、④希望型（1 例）の順で出現頻度が高く、直接表現の要求型に使用が集中していた。要求型は、下記の産出例(2)のようなお願い型と産出例(4)のような下さい型の2タイプに分けられる。《懇願》として産出された要求型の依頼表現は、45 例中 42 例がお願い型で、謙譲語と一体化することで比較的丁寧な表現になっている。下さい型も敬語化されているが、直接の要求で押し付けの度合いが高いため、僅か3例と少なかった。

- (2)どうかよろしくお願いいたします。  
(4) ご検討下さい。

本調査では、要求型のほかに条件型・疑問型・希望型の依頼表現が《懇願》として若干産出されていた。《懇願》として産出された依頼表現の殆どが具体的な依頼内容を述べない形であった<sup>11</sup>。このため、《懇願》では相手の心理的負担を配慮し、実質的な負担の掛かることが予想される内容なるべく重複して述べずに働きかけを行う可能性が推測される。

また、条件型の依頼表現については、前述したように、《依頼》として産出されたのは僅か1例であるのに対し、《懇願》としては6例産出されており、一度目より、二度目の依頼の働きかけとして使用される傾向があることが推測される。

---

<sup>11</sup> 「どうかご検討下さい。」「是非ともよろしくお願いいたします。」「もしご承諾頂けましたら幸いです。」「どうかお力添えいただけないでしょうか。」「是非ともこのお話を考えていただきたく思います。」など。

### 5.1.2 日本語の依頼表現の特徴

本調査で日本語の丁寧な依頼表現として産出された要求型・疑問型・希望型・手紙型・条件型・自問型の6タイプの依頼表現を分析した結果、表8に示すように依頼の遂行動詞「お願いする」か授受補助動詞「Vていただく」のどちらかを基礎として構成されていることが分かった。

表8 日本語の丁寧な依頼表現の構成

基本部分	変化部分（例）	タイプ
お願い＋	いたします／申し上げます／させていただきます	要求型
お願い＋でき＋ Vていただ＋け＋	ますでしょうか／ないでしょうか／ませんか	疑問型
	れば幸いです／たら幸いです／ると有難いです	条件型
	ないかと考えております	自問型
	ないかと思い、お手紙を差し上げました	手紙型
お願い＋し＋ Vていただ＋き＋	たくお手紙を差し上げました／たいと思います、お手紙を差し上げる次第です	
	たいのです／たいと思っております	希望型
	たいのですが、いかがでしょうか／たいと思っておりますが、お願いできますでしょうか	付加疑問型

また、日本語の丁寧な依頼表現を、依頼の意図の伝え方で分類すると、①相手に行為の遂行を求める（要求型）、②相手に意向を問う（疑問型）、③自分の要望・願望を伝える（希望型・手紙型・条件型・自問型）の3つのカテゴリーに分類できることが分かった。

## 5.2 中国語の丁寧な依頼表現

### 5.2.1 タイプと使用傾向

本調査で台湾の大学生が産出した丁寧な依頼表現の形式は、直接表現の「要求型」と慣習的間接表現の「疑問型」「希望型」「手紙型」「条件型」の5つのタイプに大別できる。表9にそれらの下位分類・産出例を、表10にそれらの使用状況



を示す。

表 9 台湾の大学生が産出した丁寧な依頼表現のタイプ

タイプ		産出例
要求型	懇請型	(19)懇請老師能當我的保證人。(《依頼》) (20)懇請老師幫忙。(《依頼》《懇願》)
	麻煩型	(21)麻煩老師當我的保證人。(《依頼》) (22)麻煩您了!(《懇願》)
疑問型	当否型	(23)可以麻煩老師幫我這個忙嗎?(《依頼》)
	反復型	依頼可能伺い型 (24)不知能否請老師擔任學生的保證人呢?(《依頼》)
		相手意向伺い型 (25)不知道您願不願意當我的保證人，為我寫一封簡單的保證書呢?(《依頼》)
		相手都合伺い型 (26)是否能當學生的保證人呢?(《依頼》)
	付加型	(27)學生懇求老師為我擔任保證人，不知老師是否願意?(《依頼》)
希望型	依頼可能型	(28)希望能委託老師幫忙。(《依頼》)
	相手受諾型	(29)希望老師能擔任學生我 XXX 的保證人。(《依頼》)
	質問型	(30)想請問老師可不可以當我的在日保證人。(《依頼》)
手紙型		(31)在此寫這封信懇請老師擔任我在日本的保證人。(《依頼》) (32)希望您能為學生擔任日本保證人，特寫此請託信函給您。(《依頼》)
条件型		(33)如蒙吾 師肯首，不勝感激。(《懇願》)

註 1：( ) に《依頼》《懇願》のどちらとして出現したかを示す。

註 2：調査協力者の個人情報のため、個人名は「X」で伏字する。

表 10 中国語の依頼表現のタイプ別出現数[n=60]

類型	《依頼》	《懇願》
疑問型	27(45.0%)	0(0.0%)
希望型	19(31.7%)	0(0.0%)
要求型	9(15.0%)	15(25.0%)
手紙型	5(8.3%)	0(0.0%)
条件型	0(0.0%)	1(1.7%)
合計	60(100.0%)	16(26.7%)

本調査で観察された台湾の大学生の依頼表現の使用傾向として、次の 2 点を挙げることができる。

1. 《依頼》については、慣習的間接表現の疑問型と希望型

の使用率が高い。最も使用率が高い疑問型は、当否疑問文より反復疑問文の方が多用されている。直接表現の要求型の場合、殆どが懇請型である。

2. 《懇願》については、直接表現の要求型が使用される傾向が顕著で、懇請型の方が麻煩型より若干使用率が高い。

上述の使用傾向について考察を行う。まず、《依頼》として出現した表現形式から見ていく。《依頼》については、①疑問型（45.0%）、②希望型（31.7%）、③要求型（15.0%）、④手紙型（8.3%）の順で出現頻度が高く、日本語の手紙と同様に慣習的間接表現に使用が集中する傾向が見られた。

最も使用率が高かった疑問型から見ていくと、抽出された形式は、大きく当否型・反復型・付加型に分けられる<sup>12</sup>。当否型は、下記の産出例(23)<sup>13</sup>のように「可以（麻煩老師／請您）～嗎？」と許可要求的な形をとり、相手に配慮した表現となっている。

(23) 可以麻煩老師幫我這個忙嗎?

当否型は、可能であることを前提にしているため、次の反復型より丁寧度が低く、抽出された疑問型の依頼表現 27 例中僅か 2 例であった。反復型は、「可否～?」「能否～?」「願不願意～?」のように肯定（可以・能・願意）・否定（不可以・不能・不願意）両方の選択肢を提出して相手の判断に任せるものである。抽出された疑問型の依頼表現 27 例中 21 例

<sup>12</sup> 中国語にも、「不可以／不能～嗎?」など否定疑問文の依頼表現があるが、反語として使われる場合があり、日本語では「V していただけないんですか／くださらないんですか?」のような相手に対する反発を表す表現となるため、丁寧度は低く、本調査では 1 例も見られなかった。中国語の否定疑問文については、山岡・李（2004:140-141）参照。

<sup>13</sup> 番号は表 9 の産出例の通し番号である。

(77.8%) が反復型で、産出例(24)のように相手に依頼できるか尋ねるもの、産出例(25)のように相手の意向を尋ねるもの、産出例(26)のように相手の都合を尋ねるものの 3 タイプに分けられる。このうち、相手に依頼できるか尋ねる産出例(24)のような形のものが 27 例中 16 例 (59.3%) と最も多かった。

(24)不知 能否請老師擔任學生的保證人呢?

(25)不知道您願不願意當我的保證人，為我寫一封簡單的保證書呢?

(26)是否能當學生的保證人呢?

付加型については、日本語では希望型の依頼表現と組み合わせたものが見られたが、中国語では産出例(27)のように懇請型の依頼表現に、意向を尋ねる補助形式を付加したものが産出されていた。山岡・李 (2004:154) によると、中国語でも希望型の依頼表現に「好不好?」などを付加して疑問文を作ることが可能だという。

(27)學生懇求老師為我擔任保證人，不知老師是否願意?

次に使用率が高かった希望型は、下記の産出例(28)のように相手に依頼したいことを伝えるもの、産出例(29)のように相手に依頼を引き受けてもらいたいことを伝えるもの、産出例(30)のように相手が依頼を引き受けてくれるか尋ねたいことを伝えるものの 3 タイプに分けられる。

(28)希望能委託老師幫忙。

(29)希望老師能擔任學生我 XXX 的保證人。

(30)想請問老師可不可以當我的在日保證人

このほか、本調査では要求型と手紙型の依頼表現が《依頼》として産出されていた。本調査で観察された要求型の依頼表

現は、懇請型と麻煩型の 2 タイプに分けられる<sup>14</sup>。懇請型は、下記の産出例(19)のように「請你 V」を基本型とし、依頼の遂行動詞「請」（お願いする、頼む）の前にもう一つ同様の意味を持つ「懇」「煩」「乞」などを付加して丁寧度を高めたもので<sup>15</sup>、文書に用いられる丁寧な依頼表現である。一方、麻煩型は、産出例(21)のように「麻煩你 V」を基本型とし、「麻煩」（ご面倒をおかけしますが）という前置きの配慮表現と一体化した依頼表現である。通常、目上の人に依頼する場合には、二人称に「你」（あなた）の敬称の「您」（あなた様）を使用するなどして、丁寧度を高めて使用される。

(19) 懇請老師能當我的保證人。

(21) 麻煩老師當我的保證人。

楊（2009:108）では、「麻煩・煩」は「請」より丁寧度が高いとしているが、本調査で《依頼》として抽出された要求型の依頼表現 9 例中 8 例（88.9%）、《懇願》では 15 例中 9 例（60.0%）が懇願型であったことから、懇願型の方が麻煩型より丁寧度（改まり度）が高いことが推測される。

手紙型の依頼表現については、日本語では希望型、或いは自問型の依頼表現と組み合わせられていたが、中国語では下記の産出例(31)(32)のように懇請型、或いは希望型の依頼表現と組み合わせたものが産出されていた。

(31) 在此寫這封信懇請老師擔任我在日本的保證人。

(32) 希望您能為學生擔任日本保證人，特寫此請託信函給您。

<sup>14</sup> 中国語の直接的な依頼表現には「拜託你 V」という形式もあるが、本調査ではこのタイプは 1 例も産出されなかった。

<sup>15</sup> 林（2011:156）では、メールで依頼する場合、「請」は「～してください」のように少し命令調なので、目下の人や同僚には使用できるが、目上の人や特に気を配りたい時には、「請」に 1 字加えた「懇請」「煩請」「敬請」など丁寧な表現を使用するとしている。

次に、《懇願》として出現した表現形式について見てみる。  
《懇願》については、①要求型（15 例）、②条件型（1 例）  
で、日本語と同様に、直接表現の要求型に使用が集中していた。  
要求型は、下記の産出例(20)のような懇請型と産出例(22)  
のような麻煩型の 2 タイプに分けられる。丁寧度が高いと思  
われる懇請型の方が麻煩型より若干使用率が高かった。

(20) 懇請 老師幫忙。

(22) 麻煩 您了！

本調査では、要求型のほかに条件型の依頼表現が《懇願》  
として産出されていた。山岡・李（2004:151）では、中国語  
では日本語ほどこの種の表現を多用しないと指摘している。  
本調査でも、下記の産出例(33)が 1 例見られただけである。

(33) 如蒙 吾 師肯首，不勝感激。

この条件型は、《依頼》としては 1 例も産出されておらず、  
中国語でも日本語と同様に、一度目より、二度目の依頼の働  
きかけとして使用される傾向があることが推測される。

本調査では、中国語の依頼の手紙文から抽出された《懇願》  
の表現は、すべて産出例(20)(22)(33)のように具体的な依頼内  
容を述べない形であった。このことから、中国語の場合も日  
本語と同様に、《懇願》では相手の心理的負担を配慮して、  
実質的な負担の掛かることが予想される内容をなるべく重  
複して述べずに働きかけを行う可能性が推測される。

### 5.2.2 中国語の依頼表現の特徴

本調査で中国語の丁寧な依頼表現として産出された要求  
型・疑問型・希望型・手紙型・条件型の 5 つのタイプの依頼

表現を分析した結果、表 11 に示すように「(懇) 請<sup>16</sup>／麻煩＋您＋V」<sup>17</sup>、「希望＋您＋能<sup>18</sup>＋V」、「您＋能不能<sup>19</sup>＋V?」のいずれかを基礎として構成されていることが分かった。

表 11 中国語の丁寧な依頼表現の構成

◎タイプ 1: 「(懇) 請／麻煩＋您＋V」		
在此寫這封信＋	懇請 or 麻煩＋您 V。	要求型
	懇請 or 麻煩＋您 V	手紙型＝懇請
	懇請 or 麻煩＋您 V	疑問型＝付加
可以＋	請 or 麻煩＋您 V	疑問型＝可否
可否／能否＋	請 or 麻煩＋您 V	疑問型＝反復：依頼可能
想／希望能＋	請 or 麻煩＋您 V	希望型＝依頼可能
想／希望能＋	請 or 麻煩＋您 V	疑問型＝付加
如果能＋	請 or 麻煩＋您 V	条件型＝依頼可能
	＋您是否方便？	
	＋嗎？	
	＋呢？	
	＋將不勝感激。	
◎タイプ 2: 「希望＋您＋能＋V」		
希望＋您＋能／可以 V。	希望型＝相手受諾	
希望＋您＋能／可以 V	手紙型＝希望	
如果＋您＋能／可以 V	条件型＝相手受諾	
	＋特寫此封信給您。	
	＋將不勝感激。	
◎タイプ 3: 「您＋能不能＋V」		
您＋是否能 V	疑問型＝反復：相手都合	
您＋是否願意 V	疑問型＝反復：相手意向	
想（請）問＋	您＋是否方便／可否 V。	希望型＝質問

また、中国語の丁寧な依頼表現を、依頼の意図の伝え方で

<sup>16</sup> 「煩請」「乞請」「懇求」なども使われる。

<sup>17</sup> 本調査では 1 例も産出されなかった「拜託您 V」も、このタイプである。

<sup>18</sup> 主に可能の助動詞「能」か「可以」が使われる。

<sup>19</sup> 可能の助動詞「能」と「可以」の肯定と否定を並べた「能不能(是否能、能否)」「可不可以(是否可以、可否)」のほかに、願望・意思を表す助動詞「願意」と都合が良いという意味の形容詞「方便」の肯定と否定を並べた「願不願意(是否願意)」「方不方便(是否方便)」などが使われる。但し、「願意」については、台湾人中国語母語話者から「相手に“不願意(～するのは嫌だ)”答えさせるのは、心理的負担を与えることになるので使いにくい」という意見も聞かれた。

分類すると、日本語と同様に、①相手に行為の遂行を求める（要求型）、②相手に意向を問う（疑問型）、③自分の要望・願望を伝える（希望型・手紙型・条件型）の3つのカテゴリーに分類できることが分かった。

### 5.3 日中両言語の依頼表現の丁寧化手段

前2節では、日中両言語の依頼表現のタイプと使用状況を見たが、本節では両言語の依頼表現がどのような手段で配慮性・丁寧度を高めているのかを見てみる。本調査で観察された日中両言語の依頼表現の丁寧化の手段を表12にまとめた。

表 12 日中両言語の依頼表現の丁寧化手段

手段	日本語の産出例	中国語の産出例	働き
① 付加疑問文を使用する	身元保証人になっていただきたいのですが、 <u>お願いできますでしょうか。</u>	學生懇求老師為我擔任保證人， <u>不知老師是否願意？</u>	相手の意志を尊重し、強要しないことを示す
② 否定形を含む疑問文を使用する	身元保証人になっていただけ <u>ません</u> でしょうか。	不知能否請老師擔任學生的保證人呢？	相手の承諾を想定せず、強要しないことを示す
③ 疑問文に不定量付加する	身元保証人になっていただけ <u>ませんで</u> しょうか。	<u>不知</u> 能否請老師擔任學生的保證人呢？	相手の承諾を想定せず、強要しないことを示す
④ 敬度や間接度の高い言い換えに変わる	a. [お願い。] → お願い <u>します</u> 。 → お願い <u>致します</u> 。 → お願い <u>申し上げます</u> 。 → お願い <u>したくお手紙を差し上げました</u> 。 b. [(あなたは)(私の)身元保証人になってくださいますか。] → (私は)(あなたに)身元保証人になって <u>いただけますで</u> しょうか。	a. [可以拜託你嗎?] → <u>請</u> 老師幫忙好嗎? → 學生 <u>懇求</u> 老師為我擔任保證人，不知老師是否願意? b. [老師可不可以當我的在日保證人?] → (我)想請問老師可不可以當我的在日保證人?	相手への敬意や改まりを示す
⑤ 陳述の副詞を付加する	<u>どうか</u> よろしくお願いいたします。 <u>是非とも</u> よろしくお願いいたします。	X	懇ろに頼む態度や強く願う気持ちを伝える

⑥ 語 気 助 詞 を 付 加 す る	X	不知能否請老師擔任 學生的保證人 <u>呢</u> ? 麻煩您了!	語 気 を 和 ら げ、気 遣 い を 示 す
⑦ 恩 恵 を 明 示 する 語 句 を 付 加 する	X	不知道是否能請老師 <u>為我</u> 擔任保證人? 可否勞煩老師 <u>幫我</u> 寫 一份「身元保證書」?	相 手 へ の 依 存 を 強 調 し、 敬 意 を 示 す
⑧ 地 位 差 を 明 示 する 人 称 代 名 詞 に 変 更 する	X	不知能否請 <u>老師</u> 擔任 <u>學生</u> 的保證人呢? 麻煩 <u>您</u> 了!	相 手 へ の 敬 意 を 示 す

註 1：項目④の〔 〕は、日台の大学生の産出例ではない。

註 2：項目④の（ ）は、省略されている名詞句。

上述の各点について考察を行う。まず、①～③は日中両言語に共通して見られた手段である。①の「付加疑問文を使用する」は、希望型（中国語の場合は、希望型か懇請型）の依頼表現に相手の意向を聞く文を付加することにより、依頼の諾否について相手の意志を尊重することを示すものである。②の「否定形を含む疑問文を使用する」は相手から断られる可能性も見込んでいること、③の「疑問文に不定推量表現を付加する」は相手が応じてくれることを見込んでいないことを示すもので、これらの手段を用いることで相手に押し付けないよう配慮していることが伝わり、依頼表現の丁寧度を高めることができると考えられる。

次に、④の「敬度や間接度の高い言い回しに変更する」も、日中両言語に共通して見られた手段である。上表 12④-a のように、主語を変えずに敬語化・婉曲化する方法や④-b のように主語を二人称から一人称に切り替えて間接化する方法などが見られた<sup>20</sup>。先行研究では、日本語の方が語彙的・形態的手段によって依頼表現の丁寧度を段階的に調整できるのに対し、中国語はこうした手段があまり発達していないこと

<sup>20</sup> 三宅（2004:66-67）では、二人称を「主語」から降格することにより間接性が増せば、丁寧さが加わるとしている。



が指摘されているが<sup>21</sup>、本調査でもこうした両言語の違いが顕著に観察された。

そして、⑤の「陳述の副詞を付加する」は、日本語だけに見られた手段で、日本語では「なにとぞ」「どうか」「どうぞ」「ぜひ」「よろしく」などの陳述の副詞<sup>22</sup>によって相手に懇ろに頼む態度や強く願う気持ちを伝え、自分を一段低い位置に置いていた。一方、中国語の依頼表現には陳述の副詞は使われていなかった。先行研究では、中国語では、「一下」（ちょっと）などの「軽減化」作用のある副詞によって控えめな姿勢を示したり、「多多」（多く）など「加重化」作用のある副詞によって相手への敬意を表すなどして依頼表現の丁寧度を高めることが指摘されているが<sup>23</sup>、本調査では観察されなかった。このため、中国語では相手に重い負担をかける依頼の場合、こうした副詞は使用されないことが推測される。

⑥～⑧は、中国語だけに見られた手段である。⑥の「語気助詞を付加する」は、語気助詞の「呢」や「了」が語気を和らげ、丁寧なニュアンスを出すのに使われていた<sup>24</sup>。先行研

<sup>21</sup> 林（1982）、馬場・盧（1992）、山岡・李（2004）参照。日本語の例として、「お願いしたいんだ→お願いしたいのです→お願いしたいと思います→お願いしたいと思っております→お願いしたいと存じます→お願いしたいと思い、お手紙を差し上げました」や「（身元保証人）になってくれる→なってもらえる→なってくださいますか→なっていただけですか→なっていたきたいと思っておりますが、可能でしょうか」などが挙げられる。

<sup>22</sup> 益岡・田窪（1992:45-46）では、文末の「ムード」表現と呼応する副詞を「陳述の副詞」と呼んでいる。

<sup>23</sup> 木村（1987:61）では、「一下」などを使い、依頼表現を「軽減化」した形で提示することは、「控えめな要求の姿勢」を示し、「より円滑な依頼行為の遂行を促す」としている。一方、馬場・盧（1992:60）では、「多（多）」などを使い、依頼表現を加重化することで、「相手への依存度の強さ」や「相手の存在をより重く見る態度」が示されるので、「より丁寧な敬意の表明と受け取られる」としている。

<sup>24</sup> 「了」については、林（1982:11）が、中国語では日本語の完了・過去の助動詞「た」に相当する「了」を加えることで、丁寧度が増すとしている。「呢」については、香坂（1988:185-186）が、「呢」は疑問

究では「吧」の使用も報告されているが、丁寧度がそれほど高くないためか<sup>25</sup>、本調査では一例も見られなかった。また、「呢」や「了」についても、付加されるのは、「呢」が《依頼》に使用される疑問型の依頼表現のうち、反復疑問文を使ったもの（「不知能否請老師擔任學生的保證人呢?」）、「了」が《懇願》に使用される麻煩型の依頼表現（「麻煩老師了!」）と限定的であった。一方、日本語では依頼表現に終助詞の「ね」や「よ」を付加したものは一例も見られなかった。川成（1996:60）が指摘しているように、「ね」や「よ」が依頼表現の丁寧度を低下させるためと考えられる。

⑦の「恩恵を明示する語句を付加する」は、日中両言語の依頼表現の大きな違いと思われる。日本語では「身元保証人になっていただけませんか」から恩恵を表す要素（授受補助動詞）を取り除いた「身元保証人になりませんか」は依頼表現として成立しないが、中国語では下記の産出例(24)のように「為我」（私のために～くれる）、或いは「幫我」（私を助けて～くれる）などを使って相手が自分に恩恵を与えてくれることを明示しなくても、依頼表現として機能する<sup>26</sup>。それにも関わらず、下記の産出例(34)のように、「為我」や「幫我」が使われるのは、相手への依存を強調することによって、相手を自分より上位に置き、敬意を表すためと考えられる。

(24)不知能否請老師擔任學生的保證人呢？

---

文において相手に回答や選択を促すのに使われ、「呢」がないと語気が比較的直截になるとしている。また、劉ほか（1988:328-329）は、反復疑問文に「呢」を用いると、語気が婉曲で穏やかになるとしている。

<sup>25</sup> 浜田（1995:70）では、「吧」には「聞き手の同意を得て聞き手を巻き込もうとする」働きがあるが、依頼表現に「吧」を付加しても「あまり丁寧さを増さない」と指摘している。

<sup>26</sup> 木村（1987:62）では、中国語では「幫我」などを削除すると、依頼表現としては成り立たなくなるとしているが、浜田（1995:72）では、日本語では恩恵の明示は義務的であるが、中国語では「給我」や「幫我」がなくても、命令依頼表現として機能しうるとしている。

(34)不知道是否能請老師為我擔任保證人？

そして、⑧の「地位差を明示する人称代名詞に変更する」も、日中両言語の依頼表現の大きな違いだと思われる。日本語では上位者に二人称代名詞の「あなた」を使うことは失礼だとされるが、本調査では、中国語の依頼表現の中に「你」（あなた）の敬称の「您」（あなた様）を使っているものが多く見られた。また、一人称と二人称に身分名称の「學生」と「老師」（先生）を使い、両者の地位差をはっきり表しているものも見られた。馬場・盧（1992:61）では、「日本語では主に形態的手段によって、中国語では語彙的手段によって、社会的地位の高い人とそうでない人に対しての依頼表現を区別する」と指摘しているが、人称代名詞によって依頼表現の丁寧度を調整するのが、中国語の大きな特徴と言える。

## 5. まとめと今後の課題

以上、日中両言語の丁寧な依頼の手紙文に使用される依頼表現のタイプと使用状況、丁寧化の手段を比較分析した。その結果を表 13 にまとめた。

表 13 本調査の結果と考察のまとめ

1.丁寧な依頼表現のタイプ：
(1)日中両言語の依頼表現は、主に「要求型」「疑問型」「希望型」「手紙型」「条件型」の5種に分類できる（日本語は「自問型」が加わる）。
(2)本調査では、両言語にはほぼ同じタイプの依頼表現が存在することが分かった。また、これまでの依頼に関する日中対照研究では報告されていない文書による依頼特有の手紙型や懇請型（中国語の要求型依頼表現の1タイプ）の依頼表現が観察され、日本語では手紙型も比較的多く使われることが分かった。
2.依頼表現の使用状況
(1)日中両言語とも、《依頼》には主に慣習的間接表現が使用されており、その中で疑問型が最も使用が多い（日本語は希望型と手紙型、中国語は希望型の使用も多かった）。
(2)両言語とも、《依頼》に直接表現の要求型を使用しているものが若干観察された。中国語の方が日本語より多かった。しかし、両言語とも丁寧度を高める手段が講じられており、不適切さは感じられない。

<p>(3)両言語とも、《懇願》には主に直接表現が使用されている。</p> <p>(4)本調査では、丁寧さが求められる場合の依頼表現の使用に関する先行研究の報告のうち、「両言語とも疑問型が多用される」という報告を支持する結果を得た。しかし、「両言語とも希望型が多用される」「中国語では直接表現もかなり使用される」という報告も、ある程度支持する結果であった。</p> <p>(5)本調査で観察された要求型の依頼表現は、丁寧度を高める手段が講じられており、「直接表現＝丁寧度が低い」という構図は必ずしも成り立たないことが分かった。</p>
<p>3.依頼表現の丁寧化手段</p> <p>(1)日中両言語とも、「付加疑問文を使用する」「否定形を含む疑問文を使用する」「疑問文に不定推量表現を付加する」などの手段が使用される。</p> <p>(2)両言語とも、「敬度や間接度の高い言い回しに変更する」手段が使われる。但し、日本語の方が中国語より語彙的・形態的手段が多い。</p> <p>(3)日本語では、「なにとぞ」「どうか」などの「陳述の副詞を付加する」手段が使われるが、中国語ではこれらに相当する副詞は使用されていない。</p> <p>(4)中国語では、「呢」「了」などの「語気助詞を付加する」、「為我」「幫我」などの「恩恵を明示する語句を付加する」、「您」などの「地位差を明示する人称代名詞に変更する」などの手段が使われる。</p> <p>(5)本調査では、先行研究で報告されている依頼表現の丁寧化の手段のうち、日本語の副詞「ちょっと」、中国語の軽減化表現「一下」と加重化表現「多(多)」、日本語の終助詞「ね」「よ」、中国語の語気助詞「吧」などは、丁寧な依頼の手紙文には使用されず、依頼表現の配慮度・丁寧度を高める働きをしないことが分かった。</p>

本稿では、紙幅の制約上、日中両言語の依頼の談話展開ストラテジーについては比較できなかった。別稿で論じたい。また、日本語母語話者と異なるレベルの台湾人日本語学習者の依頼方略を比較し、それぞれのレベルの学習者の習得状況と習得困難点を明らかにすることを今後の課題としたい。

## 参考文献

- Blum-Kulka, S., House, J. and Kasper, G. *Cross-cultural pragmatics: Requests and apologies*. Norwood, NJ: Ablex. 1989.
- Trosborg, A. *Interlanguage pragmatics: Requests, complaints and apologies*. Berlin·New York: Mouton de Gruyter. 1995.
- 岡本真一郎「依頼表現の使い分けの規定因」『愛知学院大学

- 文学部紀要』第 18 号、愛知学院大学、1988、7-14。
- 加藤理恵「間接依頼表現の理解を可能とする文脈的要因」『ことばの科学』第 9 号、名古屋大学言語文化部、1996、47-64。
- 川成美香「依頼表現のモダリティ——終助詞「ね」と「よ」に関する認知語用論的考察」『日本女子大学紀要 文学部』第 45 号、日本女子大学、1996、55-63。
- 木村英樹「依頼表現の日中対照」『日本語学』第 6 巻第 10 号、東京：明治書院、1987、58-66。
- 顧明耀・趙剛・于琰「会話分析による日中対照研究—依頼のストラテジーの考察—」『広島女子大学国際文化学部紀要』第 6 号、広島女子大学、1998、7-25。
- 香坂順一『初学者も使える中国語虚詞辞典』東京：光生堂、1988。
- 施信余「「依頼・断り」のコミュニケーションについて—日本人同士と台湾人同士による電話会話の分析から—」『待遇コミュニケーション研究』4 号、早稲田大学待遇コミュニケーション研究会、2006、17-32。
- 周国龍「要求行為における「ちょっと～」の機能に関する一考察」『名古屋大学人文科学研究』第 23 号、名古屋大学大学院文学研究科、1994、167-178。
- 谷口龍子「日本語と中国語における依頼の丁寧度」『社会科学ジャーナル』57 COE 特別号、国際基督教大学、2006、393-408。
- 仲真紀子・無藤隆「間接的要求の理解における文脈の効果」『教育心理学研究』第 31 巻第 3 号、日本教育心理学会、1983、10-17。
- 日本語記述文法研究会『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』東京：くろしお出版、2003。
- 橋元良明「間接的発話行為方略に関する異言語間比較」『日本語学』第 11 巻第 13 号、東京：明治書院、1992、92-101。

- 畑中香乃「サービス・エンカウンター場面における「依頼」の日中対照研究—「依頼主要部」の言語行動に着目して—」『ニダバ』第40号、西日本言語学会、2011、47-56。
- 馬場俊臣・盧春蓮「日中依頼表現の比較対照」『北海道教育大学紀要(第1部A)』第43巻第1号、北海道教育大学、1992、57-66。
- 浜田麻里「依頼表現の対照研究—中国語における命令依頼の方略—」『日本語学』第14巻第11号、東京：明治書院、1995、69-75。
- 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法—改訂版—』東京：くろしお出版、1992。
- 三宅知宏「敬意表現から見た「主語」」『言語』第33巻第2号、東京：大修館書店、2004、62-67
- 森山卓郎「「丁寧な依頼」のストラテジーと運用能力—依頼の手紙の書き方を例に—」『日本語学』第14巻11号、東京：明治書院、1995、94-101。
- 山岡政紀・李奇楠「依頼表現の日中対照研究」『日本語文化研究』第5輯、北京：学苑出版社、2004、131-160。
- 楊雪丹「パソコンメールにみられる依頼の日中対照」『桜美林言語教育論叢』第5号、桜美林大学言語教育研究所、2009、103-116。
- 劉月華・潘文娛・故韓《實用現代漢語語法》北京：外語教學與研究出版社、1983。〔相原茂・片山博美・守屋宏則・平井和之訳『現代中国語文法総覧（上）』くろしお出版、1988〕
- 林松涛『ビジネスメールの中国語』東京：三修社、2011。
- 林淑珠「日本語と中国語の命令・依頼表現の比較—丁寧度の観点から—」『国語学研究』22、東北大学文学部国語学研究室、1982、1-13。